

「2022年度中国・浙江大学スプリングスクール（オンライン）派遣参加報告書」

京都大学文学部2年 平田桜

今回の浙江大学スプリングスクールへの参加を通しての学習成果としては、中国語に親しめたことはもちろんですが、オンラインの外国語コミュニケーションの可能性に気づけたことにあると思います。コロナ禍で国際交流活動のほとんどがオンラインだった中、以前はオンラインで英語の意思疎通をすることに強い苦手意識がありました。英語のリスニングもスピーキングにも自信がない状況で、オンラインの聞き取りにくさ加わることで、コミュニケーションが難しいと考えていたからです。しかし今回このプログラムに臨むと、授業はほとんど中国語で進行され、文化講座はすべて英語でした。その中でも、オンラインの通信環境が良好で、先生方が画面共有を用いながらわかりやすく指示を出してくれたこともあり、中国語の文法や発音について、また中国のさまざまな状況について、学び理解することができました。このことから、オンラインの国際交流活動や外国語学習に対して自信を持つことができ、今後も積極的に参加していきたいと考えるようになりました。

また、他に対面のプログラムもある中で浙江大学のスプリングスクールを選んだのは、中国という国に興味があったからでした。中国の学生との交流や中国の文化背景に触れることを通して、その興味はより一層強くなりました。まだまだ中国語のレベルは十分ではありませんが、オンラインではない中国への留学によって、もっと中国について知りたい、実際に肌で感じたいと思うようになりました。

プログラムでの経験で最も印象的なのは、ほとんど中国語で進行される中国語の学習についていけたことです。このことは自分にとってとても自信になりました。中国語に限らず、外国語を学ぶ上で、あまり怖がらずにその言語の環境に身を置くことの大切さを学びました。

また中国の学生との交流も印象的でした。交流会の開催が週末だったこともあり、一度しか参加できていないのですが、考え方や感じ方、その表現の仕方が日本の学生とは異なっていることを実感しました。刺激的な体験でしたが、一方的な授業とは違い、オンラインでお互いに母語ではない英語で会話する難しさも感じました。

プログラム内容は、平日午後のオンラインでの中国語講座と中国文化講座、週末夜の日中学生交流でした。中国語講座は、それぞれの現在のレベルによってクラス分けされているため、問題なく授業についていくことができます。私のクラスでは、1時間半の授業が2コマで、毎授業宿題が出ます。授業は、精読、スピーキング、リスニングに分かれていて、いろいろな方向から中国語学習にアプローチしていました。

進路への影響は、対面での中国留学を検討し始めたことにあります。就活や卒業、金銭面の兼ね合いもあるため、どの程度現実可能かはわかりませんが、前向きに検討したいと考えています。また、中国語の語学能力検定であるHSKに挑戦したいと考えるようになったので、このスプリングスクールをきっかけにした、継続的な中国語学習に取り組んでいきたいです。